

美学会の歩み

(敬称略)

年(西暦)	月日	事項
昭和 24(1949)	10月	美学会結成
	12月	顧問、委員、幹事名と会則を掲載した「発会趣意書」が配付される
昭和 25(1950)	3月1日	学会機関誌『美学』発刊の案内と会費(25年前期200円、後期200円)
	3月20日	『美学』第1巻第1号寶雲舎より発刊(104ページ、定価100円)
	5月12日	東部会第1回例会が開催される
	6月25日	西部会第1回研究発表会が開催される
	7月1日	『美学』第1巻第2号発行(96ページ)
	11月1日	『美学』第1巻第3号、特輯「藝術批評の問題」、創美社より発行(96ページ)
	11月5日～7日	第1回全国大会(於京都大学)
昭和 26(1951)	2月1日	『美学』第1巻第4号、特輯「第1回全国大会報告」発行(96ページ)
	5月15日	『美学』第2巻第1号、特輯「実存主義美学」発行(96ページ)
	10月1日	『美学』第2巻第2号、特輯「音楽美学」発行(80ページ)以後2007年まで80ページ立て変わらず
	11月9日～13日	第2回全国大会(於東京藝術大学・東京大学)2日目以降は美術史学会との合同の公開講演会
昭和27年 (1952)	2月1日	『美学』第2巻第3号、特輯「藝術史の方法」発行
	5月1日	『美学』第2巻第4号発行、会費500円になる
	7月15日	『美学』第3巻第1号発行、特輯「近代藝術の動向」発行
	10月1日	『美学』第3巻第2号発行、特輯「藝術に於ける空間と時間」美術出版社より発行、以後今日まで発行所変わらず 但し昭和42年9月30日第28巻第2号から編集発行美学会、発売美術出版社となる 文部省科学研究費助成始まる
	10月24日～26日	第3回全国大会(於京都大学) 参加会員150余名 美術史学会との合同行事あり
	12月25日	『美学』第3巻第3号発行、特輯「芸術的表現の構造」発行
昭和28年 (1953)	3月30日	『美学』第3巻第4号発行
	6月30日	『美学』第4巻第1号発行 以後2007年まで雑誌『美学』の体裁と発行月日基本的に変わらず
	11月7日～9日	第4回全国大会(於東京大学) 美術史学会との合同研究発表会、公開講演会あり
昭和29年 (1954)	10月29日～31日	第5回全国大会(於京都大学) 音楽学会、美術史学会との合同行事あり
昭和30年 (1955)	10月21日～23日	第6回全国大会(於慶応義塾大学) 美術史学会、音楽学会との合同研究発表あり
昭和31年 (1956)	9月3日～6日	第3回国際美学会議がヴェネチアのサン・ジョルジョ・マジョーレ島で開催される 参加者約300名のうち日本人は日本学術会議から派遣された竹内敏雄ほか3名
	10月2日～4日	第7回全国大会(於同志社大学) 美術史学会、音楽学会との合同行事あり なおこの年の美学会会員数は約700名
昭和32年 (1957)	10月12日～14日	第8回全国大会(於早稲田大学) 参加会員130名、2日目に分科会方式が初めて取り入れられる
昭和33年 (1958)	10月17日～19日	第9回全国大会(於関西学院大学) 3日目に初めてシンポジウムがもたれる

昭和34年 (1959)	10月9日～11日	第10回全国大会（於東京大学）美術史学会との合同発表あり
昭和35年 (1960)	2月13日	東部会でルドルフ・アーンハイムが講演
	9月1日～6日	第4回国際美学会議がアテネの国立工業大学で開催される 日本学術会議からは今道友信が派遣される
	10月9日～11日	第11回全国大会（於京都市立芸術大学）美術史学会との合同発表あり
昭和36年 (1961)	8月23日	東部会特別例会でスザンヌ・K・ランガーが講演。この年度より会費700円になる
	10月21日～23日	第12回全国大会（於東京藝術大学・横浜国立大学）
昭和37年 (1962)	10月13日～15日	第13回全国大会（於同志社大学）
昭和38年 (1963)	10月12日～15日	第14回全国大会（於早稲田大学）
昭和39年 (1964)	8月24日～26日	第5回国際美学会議がアムステルダムで開催される 日本学術会議から派遣された竹内敏雄ほか日本人の参加者12名
	10月16日～18日	第15回全国大会（於関西学院大学）
昭和40年 (1965)	10月16日～18日	第16回全国大会（於慶応義塾大学）
昭和41年 (1966)	10月15日～17日	第17回全国大会（於京都大学）
昭和42年 (1967)	10月14日～16日	第18回全国大会（於東京藝術大学）
昭和43年 (1968)	8月15日～20日	第6回国際美学会議がスウェーデンのウプサラ大学で開催される 日本学術会議から今道友信が派遣される
	10月9日～11日	第19回全国大会（於同志社大学）
昭和44年 (1969)	10月17日～19日	第20回全国大会（於東京文化会館・国立西洋美術館）この年度より会費1200円になる
昭和45年 (1970)	10月9日～11日	第21回全国大会（於京都大学）美学会会則が改正され、新たに委員選出規定、選挙管理施行細則が制定される（いずれも施行日は昭和46年4月1日）
昭和46年 (1971)	9月27日	初めて会員の投票による委員選出が行われる この年度より会費1500円になる
	10月9日～11日	第22回全国大会（於東京大学）
昭和47年 (1972)	8月28日～9月2日	第7回国際美学会議がルーマニアのブカレストで開催され、日本学術会議から今井清が派遣される
	10月3日	東京大学文学部との共催でミケル・デュフレンヌの特別講演会が開催される
	10月15日～17日	第23回全国大会（於京都市立芸術大学）9月末の会員数700名
昭和48年 (1973)	10月13日～15日	第24回全国大会（於早稲田大学）
昭和49年 (1974)	10月5日～7日	第25回全国大会（於関西学院大学）委員が改選される
昭和50年 (1975)	3月30日	『美學』通巻100号が刊行される
	10月10日～12日	第26回全国大会（於東北大学）この年度より会費3000円になる
昭和51年 (1976)	8月29日～9月3日	第8回国際美学会議が西ドイツのダルムシュタット工科大学で開催され、日本学術会議から派遣された山本正男をはじめ日本から11名が参加する
	10月9日～11日	第27回全国大会（於同志社大学）参加者総数239名
昭和52年 (1977)	10月14日～16日	第28回全国大会（於金沢美術工芸大学）ヘルムート・クーンの特講演が行われる 委員が改選される
昭和53年 (1978)	3月31日	『美學』目録編（1-100号）刊行される

	10月13日～15日	第29回全国大会（於岡山大学）
昭和54年 （1979）	10月19日～21日	第30回全国大会（於成城大学）
昭和55年 （1980）	8月25日～31日	第9回国際美学会議がユーゴスラヴィアのドゥブロヴニクで開催され、日本学術会議から西田秀穂が派遣される
	10月11日～13日	第31回全国大会（於大阪大学） 委員が改選される 雑誌『美学』編集委員会、「美学」国際版編集委員会が設けられる
昭和56年 （1981）	6月30日	『美学』第32巻第1号にて初めて「投稿規定」が掲載される この年度より会費5000円になる
	10月11日～13日	第32回全国大会（於慶応義塾大学） 参加者324名
昭和57年 （1982）	10月16日～18日	第33回全国大会（於京都大学）ヴォルフハルト・ヘンクマンの特別講演が行われる 総会で美学会設立時からの代表委員竹内敏雄が代表委員を辞し、山本正男が代表委員代理となる 竹内敏雄は顧問となる
昭和58年 （1983）	4月1日	学会会計事務名簿管理を日本学会事務センターへ移管
	10月22日～24日	第34回全国大会（於東京大学）ミケル・デュフレンヌの特別講演が行われる 委員が改選され山本正男が代表委員になる
	10月	国際版美学AESTHETICS第1号（128ページ）刊行される
昭和59年 （1984）	8月14日～18日	第10回国際美学会議がカナダのモンリアル大学で開催され、日本学術会議から吉岡健二郎が派遣される
	10月13日～15日	第35回全国大会（於九州大学）
昭和60年 （1985）	10月12日～14日	第36回全国大会（於東北大学） この年度、日本学術会議の会員選挙が行われ、山本正男代表委員が会員に選出される 芸術学研究連絡委員会が結成される
昭和61年 （1986）	3月	国際版美学AESTHETICS第2号（130ページ）刊行される 以後隔年ごと3月に刊行され、2006年刊行の第12号まで、冊子体での刊行が続く
	10月11日～13日	第37回全国大会（於京都市立芸術大学） 会員数1075名 委員が改選される
昭和62年 （1987）	6月29日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「日本の芸術教育の現状と未来」が開催される
	10月10日～12日	第38回全国大会（於東京藝術大学）
昭和63年 （1988）	8月29日～9月2日	第11回国際美学会議が英国のノティンガム大学で開催され、日本学術会議から佐々木健一が派遣される
	10月23日～25日	第39回全国大会（於同志社大学田辺校地） 第14期日本学術会議会員に山本正男代表委員が再選される
平成元年 （1989）	6月24日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術とパトロン」が大府立情報センターで開催される
	10月20日～22日	第40回全国大会（於早稲田大学） 委員が改選される
平成2年 （1990）	6月18日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「ニューメディアと芸術」が日本学術会議大会議室で開催される
	10月13日～15日	第41回全国大会（於広島大学） 正式日程の前後に「現代芸術と社会」「都市景観と自然美」の公開シンポジウムが開かれる この年より会費6000円になる
	11月9日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「人間——先端生命科学との関係で——」が日本学術会議大会議室で開かれる。
平成3年 （1991）	10月18日～20日	第42回全国大会（於成城大学） テーマ別分科会がもたれる 会員数1283名
平成4年 （1992）	6月15日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術と伝統的技術」が日本学術会議大会議室で開催される
	9月1日～5日	第12回国際美学会議がスペインのマドリッドで開催され、日本学術会議から新田博衛が派遣される 日本からの参加者は12名
	10月16日～18日	第43回全国大会（於大阪大学） 公開プレ・シンポジウム「美術批評の現在」、テーマ別研究発表が行われる 委員が改選される
	10月27日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「空」が日本学術会議大会議室で開かれる。

平成5年 (1993)	6月14日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「映像文化とポストモダン」が大阪府文化情報センターで開催される
	10月9日～11日	第44回全国大会（於慶応義塾大学） ボーダン・ヂミドックの特別講演、「全国学生交流フォーラム」が行われる 総会で美学会会則、委員選出規定が改正される（いずれも施行日は平成6年4月1日）
	10月26日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「終末観」が日本学術会議会議室で開かれる。
平成6年 (1994)	4月1日	美学会会長新田博衛、東部会代表委員浅沼圭司、西部会代表委員神林恒道となる
	6月11日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術表現とジェンダー」が成城大学で開催される
	10月8日～11日	第45回全国大会（於関西学院大学） 「全国学生交流フォーラム」が行われる
	12月6日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「自然」が日本学術会議会議室で開かれる。
平成7年 (1995)	6月24日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「ジャンルを越えて-異種芸術間の相互交流」が開催される
	6月28日	東部会と東京大学大学院人文社会系研究科の共催でジャンニ・ヴァッティモの講演会が東京大学で開催される
	8月1日～5日	第13回国際美学会議がフィンランドのラハティで開催され、日本学術会議から浅沼圭司が派遣される
	10月20日～22日	第46回全国大会（於東京大学） ジョージ・ディッキーの特別講演、ゼミナール形式のワークショップが行われる 委員が改選され、浅沼圭司が会長に、利光功が東部会代表委員に、神林恒道が西部会代表委員に選出される
	11月12日	東部会と東北大学美学・西洋美術史研究室の共催国際シンポジウム「日本美術の美学」が開催される
	11月28日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「無常」が日本学術会議会議室で開かれる。
平成8年 (1996)	4月1日	美学会結成以来初めて美学会本部、東部会事務所が東京大学文学部美学研究室から成城大学文芸学部へ、西部会事務所が京都大学文学部美学美術史学研究室から大阪大学文学部美学研究室へ移転する
	6月15日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「演出-諸芸術における-」が開催される
	10月11日～13日	第47回全国大会（於関西大学） ヴォルフガング・ヴェルシュの特別講演が行われる
	10月15日	東部会と東京藝術大学美学研究室との共催でゲルノート・ベーメの特別講演会が開催される
	10月17日	東部会と東京大学美学芸術学研究室との共催でヴォルフガング・ヴェルシュの特別講演会が開催される
	12月10日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「こころ」が日本学術会議会議室で開かれる。
平成9年 (1997)	4月12日	西部会と京都大学文学部との共催でジョゼフ・マゴリスの特別講演会が開催される
	4月16日	東部会と東京大学文学部との共催でジョゼフ・マゴリスの特別講演会が開催される
	4月21日	東部会と三田哲学会との共催でジョゼフ・マゴリスの特別講演会が開催される
	6月14日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術における日本近代」が開催される
	9月	第17期日本学術会議会員に浅沼圭司会長が選出される
	10月10日～12日	第48回全国大会（於東京藝術大学） 周来祥の招待講演、「ART-LINK上野-谷中'97」展オープニングシンポジウム、シンポジウム「環境美学-人工と自然の対立を越えて」が行われる
	11月22日	東部会と東北大学美学美術史研究室とのシンポジウム「アンドレ・マルローの美術哲学」が東北大学で開催される

	12月9日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「いのち」が日本学術会議会議室で開かれる。
	12月25日	国際美学会議準備委員会が発足する（委員長武藤三千夫）
平成10年 (1998)	6月13日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術と環境」が東京藝術大学で開催される この年度より会費7000円になる
	9月1日～5日	第14回国際美学会議がスロヴェニア共和国のリュブリャナで開催され、日本学術会議から神林恒道が派遣される
	9月15日	東部会と東京藝術大学美学研究室との共催で、ゲルノート・ペーメの特別講演会が開催される
	10月10日～12日	第49回全国大会（京都大学）「日本の美学」と「病の感性論」の二つのテーマ別研究会がもたれる 委員が改選され、神林恒道が会長に、佐々木健一が東部会代表委員に、岩城見一が西部会代表委員に選出される 第15回国際美学会議組織委員会が結成される（委員長佐々木健一）
	12月	美学会本部は大阪大学文学部美学研究室へ、東部会事務所は東京大学大学院人文社会系研究科美術学研究室へ、西部会事務所は京都大学文学部美学美術史学研究室へ移転する
	12月8日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「転換期における人間」が日本学術会議会議室で開かれる。
平成11年 (1999)	6月19日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会と（財）兵庫県芸術文化協会との共催でシンポジウム「アートと社会」が兵庫県民会館で開催される
	10月1日～3日	第50回全国大会（於金沢美術工芸大学）オーギュスタン・ベルクの特別講演、美学会創立50周年記念シンポジウム、工芸シンポジウムが行われる 会員数1569名
	12月14日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「人間と悪」が日本学術会議会議室で開かれる。

(制作 利光 功、『美學』第50巻第4号、2000年春、pp.70-74に掲載されたものです。)

以下、津上英輔の補遺。

平成12年 (2000)	6月3日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催によるシンポジウム「20世紀—(芸術)の境界」が日本大学で開催される
	10月7日～9日	第51回全国大会（於京都市立芸術大学）研究発表に加え、シンポジウムを実施 総参加者316名
	12月12日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「自己と他者」が日本学術会議会議室で開かれる。
平成13年 (2001)	4月	会費8000円に
	6月23日（土）	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「多元的共生の時代を越えて—ニュー・ミレニアム・アートへの展望」が立命館大学衣笠キャンパスで開催される
	9月1日～6日	第15回国際美学会議が美学会と日本学術会議の共催で神田外語大学（幕張）で開催される 統一テーマ「21世紀の美学」 組織委員長佐々木健一 総参加者430人 発表論文336編
	10月6日～8日	第52回全国大会（於早稲田大学）研究発表に加え、特別企画（第15回国際美学会議2001の報告）、シンポジウムを実施 総参加者369名 委員が改選され、佐々木健一が会長に、西村清和が東部会代表委員に、岩城見一が西部会代表委員に選出される 美学会本部は東京大学大学院人文社会系研究科美術学研究室へ、東部会事務所と西部会事務所は移転せず
	12月11日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「危機としての現代」が日本学術会議で開催される
平成14年 (2002)	6月22日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術を助けるのは誰か—文化芸術振興基本法をめぐって—」が実践女子大学で開催される
	10月12日～14日	第53回全国大会（於広島大学）研究発表に加え、ワークショップ、ポスターセッション、シンポジウム、リチャード・シュスターマンの記念講演、見学会を実施 総参加者380名 総会で新会則が承認される 東西の全委員の会する委員会を学会運営の基本母体とすることのほか、副会長を新設 新会則の施行は平成16年4月1日からとする

	12月10日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム 「生命を考える」 が日本学術会議で開催される
平成15年 (2003)	3月1日	アレシユ・エルヤヴェッツの特別講演会が開催される
	5月31日	ジョナサン・クレーマー特別講演会が慶應義塾大学で開催される
	6月28日～29日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「表象芸術2003—アジアの歌と舞い—」 が立命館大学で開催される
	8月2～3日	美学会札幌特別例会が北海道大学で開催される
	10月11日～13日	第54回全国大会（於成城大学） 研究発表に加え、ポスターセッション、若手美学研究者フォーラム、書評セッションを実施 総参加者520名 総会員数1643名
	12月9日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム 「人と欲望」 が日本学術会議で開催される
平成16年 (2004)	3月	Aesthetics第11号刊行 Looking at Japanese Cultureと題する特別号で、第15回国際美学会議での発表のうち、日本文化に関するものの選集
	4月1日	新たな役員選出規定、委員選挙施行細則、委員会運営規定が施行される
	6月19日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「芸術の"無"責任 (Irresponsibility of Art)」 が日本大学芸術学部で開催された
	7月18日～23日	第16回国際美学会議がブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催され、日本学術会議から西村清和が派遣される 総参加者253名 日本人参加者23名
	7月	学会事務センター破綻（美学会の損害額7,750,801円、その補填のため、委員などから無利子で総額500万円を借り入れ）
	10月9日～11日	第55回全国大会（於京都工芸繊維大学） 研究発表に加え、若手研究者フォーラムを実施 総参加者379名 委員が改選され、岩城見一が会長に、西村清和が副会長兼東部会長に、篠原資明が副会長兼西部会長に選出される 美学会本部は京都大学文学部美学美術史学研究室へ、東部会事務所と西部会事務所は移転せず
平成17年 (2005)	4月4日	日本学術会議哲学研究連絡委員会主催のシンポジウム「人文知の可能性」が日本学術会議会議室で開かれる。
	6月25日	日本学術会議芸術学研究連絡委員会主催のシンポジウム「アートのカ—文化変容の可能性—」が京都大学で開催される
	10月8日～10日	第56回全国大会（於慶應義塾大学） 研究発表に加え、シンポジウム、若手研究者フォーラム、見学会を実施 総参加者478名 10月より学会事務を大学生協学会支援センター（美学会事務所とする）に委託する この年度の『美学』投稿論文は30編、うち採択19編
平成18年 (2006)		この年度から、『美学』投稿論文の査読を、編集委員に加え、複数の外部査読者に依頼する また、東部会例会・西部会研究発表会についても、全国大会に準じて発表要旨を『美学』に掲載する
	6月17日	芸術学関連学会連合主催の第1回公開シンポジウム「芸術の変貌／芸術学の展開」 が日本大学 で開催される 芸術学関連学会連合は旧芸術学研究連絡委員会の廃止に伴い、有志団体の組織として新しく発足する 佐々木健一氏がその会長に選出され、美学会から前田富士男が委員となる
	10月7日～9日	第57回全国大会（於大阪大学） 当番校プログラム「芸術のグローバル化と風土性—芸術創造の理論と現場」（研究発表およびパフォーマンスとシンポジウム）、エクスカッションを実施 総参加者数366名 総会員数1605名
平成19年 (2007)	6月?	芸術学関連学会連合主催の第2回公開シンポジウム「『芸術は誰のものか』—著作権問題を芸術学から考える」 が京都国立近代美術館で開催される

	7月9日～13日	第17回国際美学会議がトルコ共和国のアンカラで開催され、日本学術会議から小田部胤久が派遣される 参加者約450名
	8月1～31日	『美学』判型変更に関する会員アンケートを実施する
	10月6日～8日	第58回全国大会（於北海道大学） 「美学と文化多様性」を共通テーマとし、研究発表に加え、ゼミナール、シンポジウム、ラファエレ・ミラーニの講演、エクスカージョンを実施 総参加者323名 委員が改選され、西村清和が会長に、津上英輔が副会長兼東部会長に、岡林洋が副会長兼西部会長に選出される 美学会本部は東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学研究室へ、東部会事務所は成城大学文芸学部芸術学科へ、西部会事務所は同志社大学文学部美学及び芸術学研究室へ移転する
		機関誌『美学』が第58巻第3号（通号231号）から年2号刊行制へ
	12月8日	日本学術会議・哲学系諸学会連合の共催による公開シンポジウム「Humanities（じんぶんがく）と基礎学の危機」が専修大学で開催される 哲学系諸学会連合は日本学術会議哲学研究連絡委員会の廃止に伴い、有志団体の組織として新しく発足する 美学会から西村清和が委員となる
平成20年 (2008)	6月14日	芸術学関連学会連合主催の第3回公開シンポジウム「昭和40年代の日本における藝術の転換」が学習院女子大学で開催される
	10月11日～13日	第59回全国大会（於同志社大学） 研究発表に加え、若手研究者フォーラム、シンポジウムを実施 総参加者386名
	11月29日	日本学術会議・哲学系諸学会連合の共催による公開シンポジウム「現代社会と死生観」が学術会議で開催される
		この年度中に、学会事務センター破綻にかかる委員からの借入金を完済
平成21年 (2009)	4月	国際版機関誌Aestheticsが電子ジャーナル化し、美学会のホームページ上で公開される 第13号（電子版第1号）の掲載論文23篇
	6月13日	芸術学関連学会連合主催の第4回公開シンポジウム「藝術とインタラクティビティ」が京都国立近代美術館との共催で同館で開催される
	10月10日～12日	第60回全国大会（於東京大学） 研究発表に加え、若手フォーラム、パネル企画、アレクサンダー・カールソンの特別講演を実施 総参加者489名（内、非会員139名）
	11月28日	日本学術会議・哲学系諸学会連合の共催による公開シンポジウム「アジア文化の多元性と共存——宗教と思想の視線から」が開催される（予定）
平成22年 (2010)		第61回全国大会（於関西学院大学）（予定）

(制作 平成11年分までは利光 功（『美学』第50巻第4号、2000年春、pp.70-74に「美学会半世紀の歩み」として掲載されたものを再掲、平成12年～平成21年分は平成21年10月時点での津上英輔による補足）